

“すごい！ふしぎ”と身の回りの出来事に驚き、感動し、心を動かす0・1・2歳児の子どもたち。自分なりに興味の対象に対して関心を持ってかかわるとき、「科学する心」も動き出す。自然の不思議さや美しさに感動し、何度も繰り返し試したり工夫したりする中で、自ら遊ぶことの楽しさや喜びを感じて生きる世界を広げていきます。

0 歳児

ぎゅー



ぎゅーっと手に力を入れて、カラーボールをつかむと、かごの中へ押し込んでいました。ストンと入ると、保育者をみてニコッと笑顔になりました。

『きらり保育園』〈兵庫県〉

1 歳児

えっ?!



水道に玩具の車を置くと、水が飛び散りました。次に、位置を変えると中に水が溜まりました。「えっ?!」少し時間をおいて、再び位置を変え、何度も試していました。

『みなみ若葉こども園』〈福島県〉

2 歳児

氷が浮いているみたい!



草花入りの氷遊び。はみ出た茎を指でつまみます。氷を持つ手を徐々に離すと、「氷が浮いているみたい!」思わずつぶやいていました。

『くらき永田保育園』〈神奈川県〉

暮らしの中で人や自然、もの、出来事と意欲的にかかわることで、これまでの遊びや生活の経験が関連付き、新たな経験が蓄積されていく子どもたち。身の回りの世界をさまざまに味わいながら、愛着や、ものを大切にする心、思いやりの心を育んでいきます。

2 歳児

今、赤ちゃん
寝かしているから
シーだよ



保育者と共につくったポリ袋の赤ちゃん人形と既存のお人形。保育者や親が赤ちゃんに実際にやっていることをやりたい、ポリ袋の赤ちゃんを作ったから大事にお世話したいと、お友達と一緒に寝かしつけていました。

『こどもな一と千里丘保育園』
〈大阪府〉

3、4、5 歳児 異年齢

赤ちゃんが
ボスに食べられた！
ぼく見た！



クラスで飼育していたニホントカゲが卵を産みました。しかし、ある朝、赤ちゃんがいなくなっていました。子どもたちは、「赤ちゃん、食べられちゃったのかな」「休みの間、バッタ入れなかったからボスお腹すいてたかな」「図鑑には赤ちゃん食べるって書いてなかったよ」と、ボスと赤ちゃんの命について、それぞれの思いを言葉にしていました。

『阿久根めぐみこども園』〈鹿児島県〉

身近な植物や生き物に触れて、小さな変化やそのものの特質を感じ取り、知的好奇心を揺さぶられる子どもたち。自然に親しみ、自然の不思議さや美しさに驚き、好きになることから大切にする心、思いやりの心が育まれ、子どもたちの観察眼は高まります。

4 歳児

なすびの
赤ちゃんだ！



「紫の花きれいだね」とナスの花が咲いて保育者に伝えにきた子がいました。しかし週明け、花は枯れてなくなっていました。はじめは残念そうにしていたのですが、花が枯れたところに小さな膨らみを発見。

「もしかして、これ、なすび？」。少しずつ丸くなり膨らんでくる様子に、「なすびの赤ちゃんだ！」と嬉しそうに、そーっと、なすびをなでていました。

『丸亀市立城坤幼稚園』〈香川県〉

5 歳児

ネバネバや！ミミズが
納豆食べとる！



大きいミミズを見つけ、「うわっ！気持ちわるっ！」と叫び、そっと掌にのせていました。「なんかつめたい…。ミミズの体からネバネバとした粘液が出てきて、長い糸を引いている様子に、「ネバネバや！納豆食べとる！」と、自分が知っているネバネバした物に例える姿がありました。「ネバネバで自分の体を守っとんかな？」「ミミズが土の中にいるのは、フワフワの土の布団が好きだからだよ」自分なりの考えを友達と伝え合っていました。

『丸亀市立城坤幼稚園』〈香川県〉

4 歳児

明日には
できるかも



園の畑で大切に育てた大根で、たくあん作り。干した大根を触りながら、乾燥具合をチェックします。目で見てわかるように、画用紙に“つ”と書いて掲示していました。

「もうちょっとだ！」「明日にはできるかも！」と、子どもたちは次の日に期待を膨らませ、日々確かめます。“つ”にピッタリ重なると、「作れるぞ！」と、嬉しそうな表情を見せていました。

『あそびまショー保育園』〈宮城県〉

まわりの自然環境と共生し、相手にとっての視点で知恵をしぼります。自分の生きている環境を大切に思う心から、命の大切さに気づき、人や自然を大切にする心や感謝する心、思いやりの心を育んでいきます。

5 歳児



前みたいな死に方はあかんねん



クラスのヤゴ研究所にいるヤゴが羽化に失敗し溺れていました。

子どもたちはショックを受けていましたが、「少し動いた!」と、溺れたトンボを石の上に置きました。「羽がしぼんでるなあ」とR児。その後、息を吸えるように水草を入れたり、羽が濡れない環境を考えたりしていました。

翌日、ヤゴのケースに小さい飼育ケースが置かれ、その上に傾いたペットボトルがのせてありました。「家、新しくしてん。ペットボトルから、

水が自動で出てくるねん」とR児。保育者が「どうして淹みたいにしたの?」と聞くと、「ヤゴは川にいるから」と、ペットボトルから水を流して、ヤゴの住む川を再現していました。

木の棒もたくさんの石に囲まれ立っていて、「ヤゴが石を登って、木に気がついたら登れる」「前みたいな死に方はあかんねん」と言いながら、羽化に失敗したヤゴを見て、葛藤したり、一生懸命助けようとしていました。

『京都市立翔鸞幼稚園』〈京都府〉

5 歳児

トウモロコシを助けよう!



雨風で倒れた畑のトウモロコシ。一人一本ずつ栽培していましたが、Aさんの茎が折れていました。子どもたちは考えます。すると、「ここ(茎の部分)に土を持ってきて、固めればまた立つんじゃない?」とBさん。「本当だ。根っこの土のところが柔らかいね!」。それを聞き、土をもってきて倒れたトウモロコシを起こす子がではじめました。「棒とか立てて紐で縛る?」「それいいね!」「棒はトウモロコシの近くに立てた方がいいよ」「深く挿さないとグラグラしてだめだ」「私、紐縛れるからまかせて!」Aさんのトウモロコシに支柱が立ち、みんなで喜びあっていました。

『川俣町立川俣南幼稚園』〈福島県〉

イメージしたことを実現しようと、思いつきを受け止め合い、いかしながら、ねがいを形にしていく子どもたち。これまでの経験の積み重ねが、子どもたちの探究活動をダイナミクスにし、新たな挑戦を生み出します。まさに、好奇心や考える心、その心の動きから生まれる創造性や分かった時の喜びを味わう「科学する心」。

4 歳児

ワープ橋をつくりたい



電車を走り走らせる中で、「ワープする」橋を思いつき、新たな路線づくりがはじまりました。空想の路線を形にしていく過程で、子どもたち、それぞれに異なるイメージが統合されていきます。

思い描いたものが形になっていくことに面白さを感じ、一回転する線路ができあがったときには、「世界初」という言葉と共に、自分たちの考えを実現できた満足感や達成感、創造する自信を感じていました。

『白梅学園大学附属白梅幼稚園』〈東京都〉

もっと重くても
飛ぶんちがう？

5 歳児



板を鉄棒に結んで固定し、シーソーのように板を動かすと、その反動でより遠くへ飛ばせると、思いつきを試す子どもたち。カラーボールを板の上に置き、飛ばそうとしますが、飛ぶ前からボールは転がり落ちてしまいます。話し合いの結果、スポンジなどを板に貼り付けて壁を作り、思いっきり動かし飛ばせるようになったと喜んでいました。

そのうち、「他の物も飛ばしたいな」と倉庫へ行き、牛乳パックやペットボトルを持ってきます。飛ばしてみると、どちらもボールと同じ軌道で飛び、「えっ？飛んだなあ」「重くても飛ぶの？」と疑問を感じながら試し始めました。少し離れたところから見ていた A 児と Z 児が、「うん、飛んでる。もっと重くしても飛ぶんちがう？」「いいやん！水を入れて重くしよう」とさらに試します。

その後、「どれが一番飛ぶんかなあ」「重さを量ったらいいやん！」「そうや！体重計使ったらいいやん！」とひらめき、「これ 2 4 5 やけどよく飛ぶで」「同じくらい（の重さ）でも飛ぶのと飛ばないのものもあるよなあ」と、遠くへ飛ばすには、重さだけではないことを感じていました。

『奈良市立伏見こども園』〈奈良県〉

自分の思いや考えを表現し、考え・つくりだしていく楽しさを体験する子どもたち。興味をもって観ることから、子どもたち独自の表現したい思いがあらわれます。心に描いたことを形にする中で、イメージと現実の世界が交差します。

5 歳児

ホタルの□の中に
歯があるさー



「クラスの幼虫みたいに、
羽と足が強い
ホタルを作りたい」



「どこから見ても、キラキラ光るホタルを作ってみたい」

子ども達と相談し、ホタルの幼虫をクラスで飼育することに。

担任がマイクロスコープを用意すると、「めっちゃ見える。ホタルの口の中に歯があるさー」と、子どもたちはより興味を持って観察する姿が見られました。

観察からホタルの幼虫に関する「表現」も広がっていきます。キラキラ光る場所を考える姿、自分で見たのと同じサイズの幼虫にしようとする姿、強いホタルを作りたいと自分の思いを込める姿…同じ観察体験でもさまざまなことを感じて作っていました。

『コスモストーリー保育園』〈沖縄県〉

みなさんの園の科学する心、
描いてみませんか？



写真

タイトル